

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「そのひとらしく たのしく しあわせに」を理念に掲げている	○	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念、ユニット目標、個人目標を掲げ入居者様の生活サポートを実践、考えるようにしている	○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム玄関へ「ホーム理念」、ユニットに「ホーム理念、ユニット目標」、広報誌にも理念を記載し取り組み意識をアピールしている	○	
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	①玄関に気軽に立ち寄りできるようメッセージを掲載している ②ホーム行事、非難訓練時協力体制を整えている ③地域行事への参加、ホーム内で地域行事をたのしめるよう配慮いただいている ④ボランティア受け入れ時は写真、名前、組織名は公表可能か確認を取っている	○	①ホーム側から地域貢献出来るようにしたい ②キャラバンメイトに参加出来るようにする
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	①評価を一緒に考え、終了後もアドバイス事項は改善に努めている ②職員一丸となり入居者様のより良い生活支援が出来るようコミュニケーションを取っている	○	
6 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①一ヶ月後との推進会議時、ホームの取り組み等を報告し参加メンバーから意見を頂いている ②推進会議時資料提出、内容説明を行っている	○	
7 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	①外部評価結果提出を行っている ②毎月の入居者数報告、事故発生時の報告書提出をしている	○	
8 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	①現在利用している方がいるため社会福祉協議会担当者と連携を取り合っている	○	
9 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	①虐待定義、発見チェック表を整備している ②誤解をまねかない対応をするよう指導している	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時キーパーソンに対して十分な時間を使い重要事項説明、契約の説明をしている、また契約解除に対する説明も充分行っている	○	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①担当職員との係りを密にし話しやすい環境を整えている ②意見、苦情は職員間の学びとし謙虚に受け止めている	○	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	①健康状態に関しては緊急性の高い物は随時電話連絡を行い、それ以外は面会時の報告としている ②金銭管理は面会時小遣帳（残金確認）を確認していただきサインを頂いている、遠方にお住まいのキーパーソンに対してはコピーを郵送している ③職員の異動時は面会時紹介、挨拶でお知らせしている	○	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①苦情情報システムを玄関に銘記し、入居契約時にも説明している ②面会時「気になったこと、以前との比較」として話しやすい状況を作っている	○	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務を通し提案、思いを聞き、反映させるようにしている	○	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	①入居者様の健康状態、行事にあわせシフト作成時配慮し調整している ②緊急時は連絡網を使い連絡、協力できる体制が確立されている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動時、入社時は管理者より事前にオリエンテーションを受けていただきスムーズな動きが取れるようにしている	○	
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①個人に合わせ研修参加をしていただき参加後も伝達研修を行いモチベーションアップ、振り返りをさせている ②参加後の復命書、伝達研修を行っている	○	
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「青森の認知症を考える会」に所属し同業者、他ホームとの学びの場を共有している	○	
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	①有給、希望公休を取りやすい環境を整えている ②職場外での交流の場を定期的に設けている	○	
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	①昇給での向上心を養っている ②力量に応じたホーム内での役割づくりを行っている ③就業規則を閲覧できるシステムとなっている ④年2回健康診断、予防接種の体制がとられている	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	①アセスメント情報共有、カンファレンスを実施し家族の思い本人の不安が少しでも解決できるよう努力している ②傾聴の姿勢で家族とお会いしている	○
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①医療、介護の必要性を話し合い家族、本人にとってのベストな状態を見極めている ②「色々なホームを見るよう」アドバイスし選択肢を広げている	○
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	①入居時馴染みのあるもの、現在使っているものを準備していただいている ②大事にしている家族、ペットの写真を準備していただいている	○
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「個々を知る」をモットーにし本人の思い、本人の歴史を理解するようにしている	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの情報をお聞きしホーム生活に反映されるようにしている	○	
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間を大事にし「話をする、話をお聞きする」を心がけている、面会に来やすい環境作りをしている	○	
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族写真を飾り、季節毎に写真入り本人の記載のはがきを出し近況報告をしている	○	
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個人の折り合いを観察し仲間作りをしている	○	
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	①お盆、正月の訪問 ②家族への年賀はがきを通しお付き合いを継続させていただいている	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握	①担当職員との関わりを密にしている ②ホーム内でも趣味が活かせるようサポートしている ③入居時のアセスメント、後の細かな生活歴を家族からお聞きしている	○
31	○これまでの暮らしの把握	①入居後も自宅と大差ない生活環境を整えている ②家族以外の親戚との係り、面会も継続している	○
32	○暮らしの現状の把握	①排泄、食事、水分チェックを表にし生活リズムを観察、把握している ②毎日の生活を通し得意なこと、できる事を観察している	○ 入居もない方は「iroiroチェック」を記入し、よりこまかな分析をし生活リズムを把握するようにしている
2. 本人 がより良			○
	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	①カンファレンスをおこない十分な話し合い、意見交換をしている ②家族への説明時意見をお聞きしている	○
	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成してい	①期間を表に記載している ②担当職員のモニタリングを実践している ③定期的なアセスメント、ADLチェック表、特異行動評価表で細かな分析をしている	○

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
る			
日々の様子やケアの実践・結果、 気づきや工夫を個別記録に記入し、 情報を共有しながら実践や介護計画 の見直しに活かしている	①ケース記録、温度表で暮らしの様子が分かる ようになっている ②ケアプランにそっての記載記録になっている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の 多機能性を活かした柔軟な 支援をしている	①医療連携体制が整っており 月2回の健康チェック、 緊急時の相談窓口が整っ ている ②病院、買い物、行事外出 が職員同行にて体制が 出来ている	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に 応じて、民生委員やボラ ンティア、警察、消防、 文化・教育機関等と協 力しながら支援している	町会町さんを通し消防 訓練の実施、緊急時の 協力体制が整っている	○	
38 ○他のサービスの活用 支援 本人の意向や必要性に 応じて、地域の他のケ アマネジャーやサービス 事業者と話し合い、他 のサービスを利用する ための支援をしている	訪問マッサージ、退院 後の訪問看護を利用 している	○	
39 ○地域包括支援センター との協働 本人の意向や必要性に 応じて、権利擁護や総 合的かつ長期的なケア マネジメント等につ いて、地域包括支援 センターと協働してい る	①事例はないが地域 包括との連携、協力 体制は整っている ②地域民生委員との 協力体制も整ってい る	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①入居時主治医をそのまま係りつけ医院にし生活スタイルを変えることのないよう支援している ②病院変更、新病院受診時は家族と相談し決める混乱のないようにしている	○	
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者全員がメンタル科、精神科の主治医を持ち支持、アドバイスをいただける体制になっている、必要であれば家族同行での受診も行っている	○	
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制で訪問看護「やよい」との連携をとっているため訪問日以外でも相談できる体制になっている	○	
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	①主治医とのカンファレンスを実施しサポート体制が出来ている ②入院前後の家族との話し合いを設けている	○	
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	①重度化した場合の指針を掲げている ②入居時の契約時も説明し理解を深めている	○	開設してからホームで終末期を迎えた方はいないが主治医、訪看との連携をもち安心できる終末期を職員一丸となり見守りたい
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	①家族、入居者との十分な話し合いを設けたい ②主治医、ホームDrとの連携を図りたい ③職員間の不安を解消できるサポートをしたい	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去居所ケアワーカーとの情報交換を密にし本人、家族が安心出来る生活をサポートしている、退去後も定期的な面会、訪問を実施している	○	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	①入居時個人情報をさ最小限に活用させていただきプライバシー保護を約束している ②職員オリエンテーション時も尊厳に関する事を説明、理解してもらっている	○	
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	①入居時の嗜好情報を得ている ②同じ目線に立ちゆとりが持てる話しかけをしている	○	
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴、性格、思いを尊重し個々のペースを大切にしている	○	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	①個人の好むおしゃれを楽しんでいただいている ②理・美容の選択をしていただいている、希望する店を利用していただいている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①好きな家事作業、できる作業を一緒に行っている ②昼食を一緒にとり同じ目線で時間を共有している ③入居時食器を馴染みの物を準備していただいている	○	
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	①個人嗜好を尊重し好みのものを準備している ②喫煙は場所、時間を決め行っている	○	
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	①排泄パターンをつかみ定時誘導を試みている ②個人パターンに合わせてグッズを準備している ③新人オリエンテーション時、羞恥心に関する説明をしている	○	排泄パターンをつかみ日中リハパンから下着、夜間オムツからリハパンを使用していただきオムツ外すが可能となった方がいる
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	①異性介助拒否がある場合は同姓職員で対応している ②拒否時、声掛け、職員、時間の工夫をしている ③入浴習慣を把握している	○	
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	①入居時馴染みの枕、布団を準備していただき、ベッドマットを撤去し個人に合わせた高さに調整している ②随時、眠剤の調整を家族同意の上でおこなっている	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	①日々の生活で力量の把握をし主役になれる場を作っている ②個々の趣味、作業療法を楽しめるようにしている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①金銭管理を通し社会生活の維持と理解している ②買い物時、一緒に支払いをし社会生活継続の支援をしている	○	
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	①天候、気分配慮し外出支援をしている	○	公共の乗り物を利用し社会生活の継続、意味を感じていただけるよう支援したい
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	①退去された方の面会に出かけている ②ホーム行事に家族の参加を呼びかけ一緒に外出行事を楽しんでいただいている	○	
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①レターセットを準備し家族へ手紙を書いている ②季節毎のはがきを職員と一緒に出している	○	
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	①24時間面会可能となっている、但し21時から6時まで施錠時間となっている為連絡が必要であることを説明している	○	ホームへの宿泊事例はないが、寝具、食事提供で可能となっている
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①施錠が随時必要な場合、家族の理解、同意を得実施した ②ケースにも事情、家族の反応を残している ③身体的拘束、行動制限の対象になる具体的な行為マニュアルを整備し職員間の理解につなげている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	①居室は施錠する環境になっていない ②正面玄関施錠時間を決めている	○	離棟があり落ち着くまで家族の同意を得、施錠(ユニット玄関)期間があった、他家族へも誤解のないよう説明した
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	①昼夜共にユニット全体が見渡せる環境となっている ②居室ドアは下部分の隙間、ガラスで人影が察知できるようになっている	○	
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	①洗剤等の管理は倉庫、手の届かない高場所に保管し危険防止対策がとられている ②薬剤購入時は業者との話し合いを儲け再検討している	○	
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	①ひやりはっと委員会を配置し様式の整備、推進会議時の報告事項を実施している ②定期的な予想ヒヤリハットにも取り組み未然に防ぐことが出来る対応もしている ③資料等は常時確認できる体制となっている	○	
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	①緊急時マニュアルが整備されている ②全職員が救急救命講習を受けている、入社後の義務化にしている	○	
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	①防火管理者指導の元、地域住民と一緒に年2回の訓練を実施している ②地域住民の協力を得られる体制となっている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	①面会時状態報告時説明し一緒に考えている ②「ひやり・はっと」委員会が定期的に考えられるリスクを調査し未然に防ぐようにしている	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の病状、薬を把握し変化時は職員間の情報共有をしている、家族面会時も情報を共有していただいている	○	
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①調剤薬局の配達により情報共有と相談ができるシステムとなっている ②個人ケースに薬カードを添付しすぐ確認できるシステムとなっている	○	
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	①管理栄養士による食事メニューとなっており食物繊維が抱負に摂取できるものとなっている ②個々の排便パターンが把握でき排便を促す飲み物、食べ物を準備している	○	
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア、嗽で個々に合わせた支援をしている	○	
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①毎日の食事摂取量、水分飲量をチェックしている ②体重測定回数も個々に違いBMIで健康管理をしている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	①洗面所、玄関に手指消毒を設置している ②入浴後の浴室消毒、器具消毒を実施 ③情報を共有するよう保存版として資料を掲示している	○	
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	①1日分の食材が配達となっている ②毎日食器、調理器具消毒を行っている ③土曜日をキッチン掃除の日としている	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施錠時間を決めており玄関には気軽に入れよう「お茶でもどうぞ」の看板を出している	○	
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①共有場所は季節が感じられるような飾りつけてなっている ②職員の履物は極力音が立たないものをはき、音に配慮している	○	
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①リビングでゆっくり過ごせる環境となっている ②喫煙場所を確保している	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	①入居時の説明で愛用のあるもの、なじみのある ものを準備していただいている ②担当職員が居室環境整備を一緒におこなっている	○	
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	①24時間、四季を問わず温度差がない環境となっ ている ②各居室へ温湿度計を設置し、時間で温度を測っ ている	○	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	①居住空間の手すり設置 ②必要に応じベッドへの手すり設置 ③エレベーター設置	○	
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	①居室への混乱がある方へはランドマークを付け ている ②トイレ、浴室の表記をしている	○	
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	玄関へベンチを設置し活用している	○	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①家族とのコミュニケーションを大事にし「一緒に考える」「共有」の気持ちを大事にしている
- ②地域に根付き、地域の協力の元関わりを広げている
- ③排泄、食事、行動の自立と快適を促し過介助にならないサポートをしている
- ④退去後も本人、家族との繋がりを持ち最後まで見届けるサポートをしている
- ⑤職員の「やりがい・生きがい」が見いだせる職場環境を作っている